

－ 京都 秀吉の時代 － 御土居を歩く

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

天下統一を成し遂げた秀吉は、京都大改造の一環として、軍事的防衛と洪水対策のために天正19(1591)年、御土居を築造しました。御土居は、京の町を囲む土塁とその外側の堀から成り、総延長は約23kmありました。土塁の高さは3m以上、堀の幅は20m前後・

深さは2m以上あったようです。堀の一部は川を利用していました。東は鴨川・西は紙屋川・南は九条・北は鷹峯に沿い、一般に七口といわれる出入口がありました。

御土居は早くから壊され始め、江戸時代初期の洛中絵図には、すでに30箇所を越える切り通しが描

かれています。現在では北部や西部で、その一部が残っているに過ぎません。ここでは、発掘調査で見つかった御土居跡と、現存する御土居を紹介します。御土居に沿って京都を巡れば、「京都 秀吉の時代」を実感できるのではないのでしょうか。(モンペティ 恭代)

A 中京区円町 1999年度調査

JR円町駅の北側で幅15～16mの御土居基底部がみつかりました。西側の佐井通との段差がみられ、佐井通に堀があったことをうかがわせます。



B 下京区中堂寺南町 2000年度調査

五条千本南西角で、幅約12.5m、深さ約1.5m規模の南北方向の堀がみつかりました。



C 下京区堂ノ口町 1981年度調査

京都市中央卸売市場水産棟で、東西方向の土塁と堀、南北方向の堀の東肩がみつかりました。南下した御土居が東に曲がっています。



御土居と発掘調査の位置



E 南区西九条鳥居口町 1981年度調査

油小路東寺道北東角で、南北30mにわたって堀がみつかりました。堀の中からは多量の木製品が出土しました。



D 南区西九条春日町 1984年度調査

九条油小路北東角で、幅約20m・深さ約1.5mの南北方向の堀がみつかりました。当時の生活用品が多数出土しています。



Dから出土した木製品類

日本語とポルトガル語の文字が読める。「pe.せるそ様...」とあり、イエズス会宣教師セルソ・コンファローネを指します。



将棋の駒



人形の頭



錐



5 北区鷹峯旧土居町 土天井町

御土居の北西角部にあたり、鷹峯街道と交差する部分が長坂口でした。ここが、杉坂を越え周山に至る街道の出入口です。



4・5は、事前に京都市文化財保護課(075-761-7799)まで申し込んで頂ければ、中に入ることができます。

4 北区大宮土居町 玄塚下

玄塚から土天井町間の住宅街の南側を見ながら歩くと、御土居の北側を限るフェンスが見えます。堀と土塁が最も良好に残っていることから、その巨大さが実感できるでしょう。



3 北区大宮西脇台町 大宮交通公園前

史跡には指定されていませんが、公園の中に土塁が残されています。玄以通からでもフェンス越しに見えます。



2 北区紫竹上長目町・上堀川町

加茂川中学前 上賀茂御園橋

御土居の北東角部にあたります。堀川通に分断されていますが、加茂川中学校校庭の北東が屈曲部になります。加茂川の堤防の役割を果たしていました。



6 北区鷹峯旧土居町

千本北大路 北木ノ畑町

土塁そのものが御土居公園として整備されています。紙屋川を見下ろすと、川が御土居の外堀の役目を果たしていたのがよくわかります。



御土居の位置
(文中の は最寄り市バス停留所名です)

8 北区平野鳥居前町

わら天神前

樹木が取り払われて整備復元されているので、土塁の形状がよくわかります。



7 北区紫野西土居町

わら天神前

保育所の南側に、かろうじて小山のように残っています。紙屋川東岸にあることや、町名からもわかります。



1 上京区寺町広小路上

北之辺町 府立医大病院前

盧山寺境内東、墓地の奥に帯状に残り石碑が建ちます。



10 中京区西ノ京中保町

北野中学前

史跡には指定されていませんが、校庭に東西に残っています。ここは御土居の袖と呼ばれる、西側の突出部分の北側です。



9 上京区馬喰町 北野天満宮前

境内西側に御土居が残っています。本殿の西に石碑があり、御土居の上には見晴らし台が設けられ、普段は登ることができます。春秋の一時期には有料となります。北門を出ると、御土居から出土したと伝えられる石仏の祠があります。紙屋川に架かる桜橋から御土居が見下ろせます。



11 中京区西ノ京原町 西大路御池

西土居通を御池通から北上すると木々の繁みが見え、市五郎大明神の境内となっています。鳥居の横に説明板があります。

